

物理チャレンジ 2018 全体報告

Reports of the Physics Challenge in 2018 : General view

埼玉大教育¹, 東京理科大², 電通大³, 元岡山大⁴, 元筑波大⁵

○近藤一史¹, 北原和夫², 鈴木勝³, 東辻浩夫⁴, 大塚洋一⁵

Saitama Univ.¹, Tokyo Univ. of Sci.,² UEC³, ex-Okayama Univ.⁴, ex-Univ. of Tsukuba⁵,

○Hitoshi Kondo¹, Kazuo Kitahara², Masaru Suzuki³, Hiroo Totsuji⁴, Youiti Ootuka⁵

E-mail: kondo@mail.saitama-u.ac.jp

全国物理コンテスト・物理チャレンジは、
2018年度で第14回目を迎える。

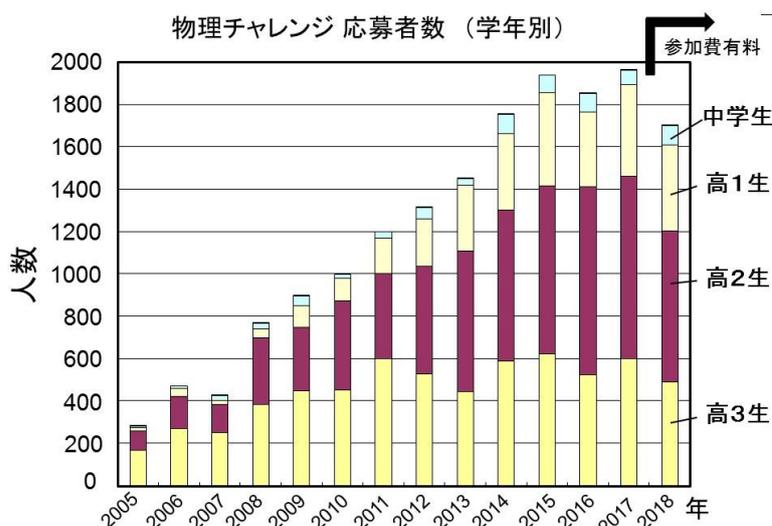
一昨年の2016年度は、応募者が初めて減少したが、昨年度は回復して1967名の応募があった。

今年度の物理チャレンジから初めて参加費を徴収することになり、応募者が、かなり減るのではないかと懸念していた。しかし、減少したものの、全国から1699名の応募があった(右図)。これは、科学オリンピックへの関心が高まってきたことや、実験レポートが、「輪ゴムを引く力と伸びの関係を調べてみよう」という、取り組やすい課題であったからではないかと推測される。

第1チャレンジの実験課題レポートは6月15日に締め切られた。理論問題コンテストは7月8日に全国一斉に行われる。実験課題レポートと理論問題コンテストの成績上位者約100名が第2チャレンジ進出者として選出される。

第2チャレンジは、国立オリンピック記念青少年総合センター(東京)で、8月19日から22日の3泊4日で行う予定である。

本事業は、応用物理学会等からの支援を受けて実施されました。



Number of applicants (by grade)



Number of applicants (by prefecture)